# 第３回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る
# 有識者懇談会 結果概要

＜日時＞

令和８年１０月２８日（水）　１０：００～１１：００

＜場所＞

岐阜県庁　３０２会議室

＜委員意見＞

**第３次リニア中央新幹線活用戦略の素案について**

**〇小川　光　委員**

・開業効果を広く波及させるためには交通ネットワークの整備が不可欠。例えば、濃飛横断自動車道が完成するまでは、広範囲に開業効果が及ぶことは容易ではない。そのため、短期的には岐阜県駅周辺で効果を生み出す工夫が必要。

・岐阜県駅だけに県全体の活性化機能を担わせることには無理がある。東濃地域は岐阜県駅を活用し、西濃地域は名古屋駅を積極的に活用するという役割分担が現実的。

・素案の施策は岐阜県駅に関する内容が中心となっており、県全体の視点を示すためにも、名古屋駅をどのように活用して西濃地域の活性化につなげるのかという施策も盛り込むと、全体のバランスが良くなる。

**〇金室　紀子　委員**

・写真や図表が多く活用されており、資料としては十分に内容が伝わるものになっているが、若者や子どもの視点で見ると、用語や表現にはやや行政的で硬い印象がある。

・自治体や事業者が自治体や地域の枠を超えた連携事業に取り組む際に、活用しやすい制度や補助事業を県が整備するなど、自発的な取組を促進できる環境づくりが必要。

・開業によりアクセスが良くなれば日帰り利用も増加するため、「もう一泊」には、夜や朝にその地域に滞在する価値や理由を明確に打ち出すなど、宿泊してもらうための工夫が重要。

**〇倉内　文孝　委員**

・全体的に、資料全体がまだやや硬い印象である。
・関係人口を増やすためには、まず岐阜県を知ってもらうことや、岐阜県の情報に触れてもらうことが必要。そのため、情報発信や認知度向上に関する取組も、もう少し盛り込んでもよいのではないか。
・駅周辺整備では、交通結節機能だけでなく、人々の交流が生まれる空間やイベント開催が可能な空間など、人が集まり滞留する機能についても記載があってよい。

**〇三井　栄　委員**

・岐阜県は名古屋駅と岐阜県駅の両方を活用できるという恵まれた条件にあり、両駅を上手に活用するという視点をより強調して計画の中に取り入れるべき。
・したがって、名古屋駅とリニア岐阜県駅という二つの玄関口を活用する考え方を前面に打ち出した方がよい。西濃地域などは名古屋駅を利用することで県外への移動もしやすくなり、逆に県外からの来訪者にとってもアクセスしやすくなる。このような強みを積極的に発信するべき。
・岐阜県駅周辺での宿泊につながる魅力づくりが課題。他事例を参考に、開業前から宿泊を促進する仕掛けを整備することが必要。

**〇森下　晶美　委員**

・全体について、行政が作成する資料としては十分に分かりやすく、誰が読んでも理解しやすい内容になっている。
・各地の観光素材を磨き上げてブランド化していくことが有効であり、岐阜県の魅力的な観光資源が素材別にマップとして一覧的・体系的に整理されている点は良い。
・リニアは岐阜県への誘客手段にとどまらず、広域連携を生み出す基盤として活用することが重要。観光では共通テーマを持つ地域同士を結び、産業では美濃和紙や刃物などの地場産業を他地域の資源と連携させることで、新たなストーリーや付加価値を創出できる。
・交通網が整備されれば自然に人や経済活動が動くという時代ではなく、こちらから積極的に魅力やコンテンツを提示していくことが必要。

**〇竹内　治彦　座長**

・図表や写真が効果的に用いられており、分かりやすく、親しみやすく、非常に魅力的な内容に仕上がっている。
・保育園の短期体験プログラムは非常に良い取組。岐阜県では木材など地域資源を生かした魅力的な教育施設が各地で整備されており、都市部の小学生が一定期間岐阜県の学校で学ぶ仕組みを実現できれば、自然豊かな環境や木材を活用した優れた教育施設の魅力を体験してもらうことができる。
・リニアを単独で考えるのではなく、新幹線や航空路線を含めた広域的な周遊ルートの中に位置付けることが必要。中部国際空港の存在は重要で、中部圏全体の国際競争力を維持するためにも、空港との連携を積極的に進めていく必要がある。
・旅行会社や観光事業者と協議しながら、新たなパッケージ商品や周遊モデルを構築し、それを提案していくことが重要。